

紅弓便り 夏号

ら、自分たちらしい「部の形」を築いていきたいと思っております。

【主将挨拶】

05 隅田小遙
盛夏の候、皆さまいかがお過ごしでしょうか。日頃より女子弓道部への温かいご支援とご声援を賜り、心より感謝申し上げます。

このたび第59代主将を務めさせていただきました、の隅田小遙と申します。

59代は「姿勢一貫」という目標のもと、弓と真摯に向き合う姿勢を大切に日々稽古に励んでいます。「姿勢」とは射の型だけでなく、弓道に取り組む心の在り方や、仲間との関係性、日常のふるまいにまで通じるものだと考えています。その言葉を胸に、部員一人ひとりがそれぞれの立場で真剣に活動しています。

練習が思うようにいかず悩む日もありますが、同期や先輩後輩との支え合いを通して、苦しさの中にも成長の喜びを感じる毎日です。

今年度は新たに8名の新入部員を迎えて、部の雰囲気も一層明るく活気づいています。正規練習に加えて、自主練習にも力を入れ、互いに声を掛け合いながら、技術と心の両面での高まりを目指しています。

また、他大学との交流や試合の機会にも恵まれ、部としての経験の幅も広がりつつあります。一つひとつの機会を大切にしながら

【役員紹介】

主務	森佳乃葉	副将	森佳乃葉
外務	松尾陸	主将	隅田小遙
通信	講崎日佳理		
経理	岩本菜奈香		
道管	講崎日佳理		
体育会役員	岩本菜奈香		

今後とも、女子弓道部一同、より一層精進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



【行事予定】

一月

成人祝賀会

医学部交流戦

中四国新人戦

八大学交流戦

追い出し射会

卒業式

入学式

親善大会

練習試合

全日本大会予選

西日本大会

五大学大会

全日本大会本戦

県リーグ

OG総会

中四国学生弓道

選手権大会

引退射会

県新人

冬の大通整

十一月
十二月

【中四新】

0 6 井上友花

二月十八日から二十日にかけて、ジップアリーナ岡山にて第三十一回中国四国学生弓道新人戦が開催されました。私を含め半数近くの〇六にとつてアリーナで弓を引くの

は今大会が初めてだつたので、会場の広さに圧倒されました。緊張しつつも期待に胸が膨らんだのを覚えていきます。

女子個人予選では六人が予選を通過しました。私は個人戦のみの出場だったので絶対に予選は通過したいという思いで試合に臨みました。一立目で半矢し、少し安堵しながらも気の抜けない状況で二立目に向かいました。一本目を外してしまい焦りそうになりました。前と後ろにいる同期たちの存在が心強く、気持ちを立て直すことができました。二本目以降は落ち着きを取り戻し、合計五中で予選を通過することができました。反省点としては決勝射詰の一本目を外してしまったことです。絶対に外してはならない場面で平常心を保つて中で切る難しさを実感しました。

女子団体予選ではAチームが一位通過、Bチームが敗退となりました。Aチームは決勝の一、二戦目に勝利しましたが、続く準決勝で島根大学に一本差で惜しくも敗れ、四位という結果でした。また、〇六の大和が優秀射技者に選出されました。

この大会を通して自分の反省点、改善点を見つけることができ、悔しさを原動力に今後の練習に励もうと思える大会となりました。今大会期間中は射技指導はもちろん、精神面でも先輩方にたくさん支えていただきました。気持ちが折れそうになる場面が何度もありましたが、先輩方のおかげで最後まで頑張ることができたと思います。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

【中国大会】

05 森佳乃葉

「なければ」という緊張から思うような射ができず、一本目から詰めることができなかつたり、大きく流れを変えることもできなかつたりと、悔しさの残る内容となってしましました。

四月二十七日、二十八日にかけて、山口県維新百年記念公園大晃アリーナにて、第五十八回中国学生弓道競技大会が行われました。

しかししながら、○五、○六ともに「団体戦」としての在り方を見直すきっかけとなるような、大きな学びを得る大会であったと感じています。

六は中四新以来の力ぎた大会であり

全員が出場していくたため緊張感のある場面も多々見られました。選手同士で励まし合い、切磋琢磨しながら、実力を発揮しようとする姿が印象的でした。女子メンバーがこれほど多く出場できる大会は滅多にないため、非常に貴重な経験となりました。

今大会の結果は、ボーダー二十七中に對し、女子Aチーム二十四中、Bチーム十二中で、いずれも予選敗退となりました。全員が納得のいく結果を残すことができず、悔いの残る大会となりました。

〔親善試合〕

05 講嶺目佳理

特に今大会では、団体は出場したハンノリーの予選が四立という、いつもより多い立数だったこともあり、精神面や体力面の管理がこれまで以上に重要であったと感じました。今年度からは、立ごとに控えの選手も含めた反省会を行うようにしていました。「全員が選手である」という意識を持った挑めたことは、大きな収穫であったと思います。

私自身は大前で引かせていただきました。練習では一本目をしつかり詰めることができていたものの、本番では「私が中で

六月二十九日に第四十九回広島県学生弓道親善試合が広島県立総合体育館弓道場（グリーンアリーナ弓道場）にて行われました。今回の大会は、05、06にとつては久しぶりの大会、07にとつては大学に入つて初めて経験する大会となりました。みんな緊張やプレッシャーを感じている様子でしたが、日々の練習の成果を発揮しようと試合に臨んでいました。

た人もいれば、悔しい結果に終わった人もいました。しかしその結果に一喜一憂するのではなく、次の中を出すためにはどうしたら良いか、今回はここが良かつたなど、チームそれぞれが次の立ちに繋げる考えをしていたのがとても印象的でした。試合と練習時とは異なる環境の中でも前向きな考えが出来ることは、チームとしての強みだと改めて感じました。また、今大会の結果は団体戦ではDチームが準優勝、そして個人戦ではDの部が準優勝を収めました。Dの活躍を嬉しく思うと同時に、私たち05、06にとつては先輩として後輩に負けてはいられないと身が引き締まる思いを抱きました。

今回の大会では他の大学の方の射を見ることができ、勉強になることが多かつたと思います。また試合を通して、選手それぞれにとつて多くの課題を見つけることができた貴重な機会となりました。この経験を糧に今後の大会で結果を出していけるよう、各々のより一層の技術向上を目指し、全員が一丸となつて練習に励んでいきたいと思います。

【全国選抜】

06 大和千夏
六月二十八日から二十九日にかけて、全日
本弓道連盟中央道場（至誠館第二弓道
場）・明治神宮武道場至誠館弓道場におい
て第三十七回全国大学弓道選抜大会が開催
されました。広島県学生弓道親善試合と同
日に開催されるということで、団体メンバ
ー四人のみで東京へと出発しました。

待合室では、数々の大会で結果を残してい
る有名な大学の選手を見かけ、緊張感に包
まれました。また、強い選手の方々と戦え
ると思うと、より一層気が引き締まりまし
たが、その中でもどこか楽しみに思う気持
ちがありました。そして、積み重ねてきた
努力を信じて、勝ちに行く気持ちで予選に
挑みました。

しかし、団体的中は八中で、納得のいく
結果を出すことができませんでした。ボーダーは十中で、予選敗退という結果に終わ
りました。十一月に伊勢神宮弓道場にて開
催された弓道王座決定戦では、トーナメン
ト一回戦敗退で終わってしまったので、なんとかしてでも予選は通過したいという気
持ちがありました。そのため目標を達成する
ことはできませんでした。この結果を踏ま
えて、選手それぞれがあと一本詰めるには
何ができるか考えて試合に挑むことが大切
だと改めて感じました。全国という舞台で
は普段と同じような射ができなかつたり、
団体の流れが悪いときに焦りが出てきたり
と、最も大切ないつも通りの射を行うこと
が最も難しいことになります。しかし、普
段と違う雰囲気の中でも強いチームは安定
して的中を出せており、そこが自分たちと
の大きな差ができる部分だと感じました。
今回の試合を経て、私たちの未熟さが改め
て明確になり、たくさんのことを学ぶ良い
機会となりました。緊張やプレッシャーに
負けず、安定した的中を出すためには、自
分の射と向き合い、基礎をもう一度見直す
べきだと思います。今まで良い結果を残し
てきたからこそ、自分たちの実力を過信し
すぎていた部分もあるのではないかでしょう
か。私たちに勝てる実力はあると思います

が、その実力を重要な場面で発揮できなければ意味がありません。これから、インカラまで約一か月期間がありますが、この期間を無駄にしないように、次の大会では予選を通過できるように、努力をし続けていきたいです。

私たちは、先輩方とともに全国大会への切符を手にしました。一年生の頃から、大きな大会に出場させていただき、結果も残していましたが、最近は予選すら通過できていません。今の実力に満足することなく、そして入ってきた後輩にも大きな舞台での景色を見せてあげられるよう、努力し続けていきたいです。

【西日本大会】

06 河野愛莉

七月八日から九日にかけて、照葉横水ハウスマリーナにて第六十九回西日本学生弓道選手権大会が開催されました。今年も去年と同様、対面形式で試合が行われました。参加した07の学年の選手にとっては大学に入つて初めての県外での大会となりました。緊張しながらも大学弓道の迫力を肌で感じることができたのではないかと思います。

団体戦は四人一立て二立て行わされました。

一立目は、一本目で全員が抜いてしまい、そこから切り替えられず、良い流れが作れなまま六中という結果で終わってしまいました。

二立目は、一立目の反省を意識して試合に挑みました。一立目より的中を出すことが

でき、八中となりました。良い流れが作れたと言える立にはならなかつたものの、一人一人が自分の役割を意識しながら引くことができたのではないかと思います。

団体戦は二立てをして思うような結果が出ず、合計十四中でボーダーである十七中に届かなかつたため、予選敗退となりました。今回の団体戦を通して、練習通り、またそれ以上の的中を本番で出すことの難しさを強く実感しました。緊張や雰囲気の違いから、試合では自分の思うような射ができなくなってしまいます。そこでどうすれば練習の時の射に近づけられるのか、本番で中でられるのかを考え、本番に近い緊張感を持つた練習をしていこうと思います。また、一立目で崩れてしまつた時、二立てどのようにリカバリーしていくのか、どのように声掛け・雰囲気を作っていくのかについて改めて考えていきたいです。

私個人の結果としては、一、二立てとともに三中することができ、個人決勝に進出することができます。

決勝射詰めでは、あと一本詰めていれば入賞というところで外してしまっても悔しい結果となつてしましました。その時強く感じたのは、試合の中で高まっていく緊張やプレッシャーを、自分自身で扱っていくことの難しさです。「ここで外したくな
い、勝ちたい」という気持ちが強くなるほど身体が固くなつてしまつたのがあと一本を詰め切れなかつた要因だと考えます。そのため、本番で自分を信じ抜けるよう、日々の練習で自分自身に確かな自信を積み重ねていきたいです。

今回の大会では、普段あまり見ることのない九州の大学の射を間近で見ることができ、その迫力・安定した射にとても驚かされました。

それと同時に私たちもそのような人を魅了できるような選手になりたいと思いました。今回の大会で学んだことを活かして、今後の大会に向けて、自分の課題に向き合っていきたいと思います。

も、応援のほどどうぞよろしくお願ひいたします。

【編集後記】

05 隅田小遙

広大女子弓道部五十九代の残りの大会も僅かとなりました。先輩方の「常に上を目指す」姿勢で築き上げてこられた努力と精神を大きな指針とし、日々練習に励んでおります。

私たち五十九代の代目標である、「至誠一貫」という言葉には、何事にも誠実に向き合い、そして一度決めた初志を最後まで貫き通すという意味が込められています。先輩方の教えを胸に刻み、私たちは現状に決して満足することなく、常にさらなる高みを目指し続ける心を大切にしていきます。

弓道は、単に技術を向上させるだけでなく、心身を鍛え、仲間と共に成長できる武道です。限られた時間の中で、弓を引ける恵まれた環境、そして共に励まし合う仲間がいることに深く感謝しながら、一日一日を大切に精進してまいります。

五十九代一同、「至誠一貫」の精神を胸に、精一杯活動してまいります。今後と